

知事と区市町村長との意見交換

(三鷹市、日野市)

令和5年11月17日(金)

17時30分～18時00分

○**行政部長** 本日の意見交換ですけれども、2自治体を予定してございます。まず、三鷹市から始めさせていただきます。市長、こちらの映像と音声は届いておりますでしょうか。

○**三鷹市長** 三鷹の市長の河村です。声も映像もしっかり。

○**行政部長** 市長の声と映像も届いております。それでは三鷹市長との意見交換を始めさせていただきます。初めに知事からお願いします。

○**知事** 河村市長、大変お元気そうで、今日はどうぞよろしく願いいたします。地域の課題、そして都政に関する要望などをお聞かせいただければと思います。ではどうぞ早速お始めください。

○**三鷹市長** こんにちは、三鷹市長の河村です。知事もお元気そうでよかったです。私の方から冒頭3つのお願いの他に道路の整備の関係で、国の外環道路への協力を三鷹市がしているのですけれども、放射5号線を都知事も4年前ですかね、開通のオープニングで玉川上水のところで御挨拶をされていたと思いますけれども、放射5号線が玉川上水とつながったこと自体は、東八道路というのがあって、環八に向かって整備されているのですけれども、それ自体は通過交通の問題で大変三鷹市民としても喜んでいるのですけれども、同時に生活道路の中に通過交通が入っていくという問題で、今東京都の北側の件の方で協力してもらっていますけれども、一層の御協力をお願いしたいということを冒頭お願いさせていただきます。

今日、三鷹市からは3つありまして、1つ目は三鷹駅の南口で今1.5ヘクタールの再開発を計画しているのですけれども、そこは三鷹市としては「子どもの森」構想ということで、新しい再開発のイメージを追求しています。子どもを中心としたまちづくりということでありますので、是非細かいことはまた個別にお願いすることになると思いますが、是非三鷹の再開発に関心を持っていただいて、御協力をよろしく願いしたいというふうに思っているのが一つ。

それから2つ目は保健所とか児童相談所の機能の再編の時期に来ているのではないかと、三鷹以外の地域の隣接市の皆さんも言っていると思うのですけれども、是非それぞれちょっと違いの問題もあるのですけれど、地元市に対して情報交換と具体的なあり方についての御協議をさせていただきたいということでもあります。保健所の方は新型コロナウイルスの蔓延で、まさに大変な状況でありましたけれども、これも以前から言っているように調布とか狛江とか府中、それから三鷹、武蔵野、小金井も含めて6市で100万人ぐらいの人を対象にしているのです、かなり運営は厳しい状況じゃないかというふうに思ってい

ます。私は単純に分離すればいいとか、そういうことではなくて、役割を保健所の皆さんと交流とか連携とかいうことをしていかなければいけないし、ネットワークを密にする方法を考えていただきたいなというふうに思っています。それから児童相談所の方は御承知のように区部と隣接の多摩地域の市で広域的に持っていたわけですが、それが今再編の時期になっています。是非三鷹駅前の再開発、先ほど「子どもの森」と言いましたけれども、そこともひょっとしたら組み合わせもあるかもしれません。是非、御協議の中に入れていただきたいなというふうに思っています。

それから3つ目は放課後の子ども教室の推進事業への御支援ということで、これは三鷹では「学校3部制」と言いまして、第1部は普通の学校の授業のところ、そして第2部が放課後の子供たちの遊び場、そして第3部で地域の皆さんに開いた学校施設ということで、「学校3部制」というコミュニティースクールという構想の中で進めようとしています。これは学童とか子供の居場所づくりという大変お金がかかることでありますけれども、地域資源として学校を見直して教育委員会と共に新しい学校のあり方を追求しようというものでありますので、是非それに対する財政的な支援も含めて御協力をよろしくお願ひしたい。そういうことで駅前再開発、保健所とか児童相談所の問題、3つ目が子供の放課後の対策ということで御協力、御支援をよろしくお願ひしたいということを申し上げたいというふうに思っています。以上でございます。

○行政部長 ありがとうございます。まず知事お願いします。

○知事 市長、広域的な幹線道路の整備についてのお話が冒頭ありました。幹線道路、そして公共交通ネットワークというのは、何よりも都市活動、そして都民生活を支える都市の基盤でございますので、重要な役割を担っているわけであります。

関連して御要望の中で、三鷹駅前地区の再開発事業への支援について述べられました。これを契機にして、市全体を「緑のまち」にすることを目指しているというお話でございました。都においても100年先を見据えて東京の緑を様々な主体と協働して共に働いていくという価値を高めて、都民と一緒に未来へ継承していく、その新たなプロジェクトとして「東京グリーンビズ」を始動いたしております。これまでは高度経済成長期の経済成長で都市開発というのは、まず経済性とか効率性が優先されてきたわけですが、「東京グリーンビズ」、このコンセプトを基にしまして、コンクリートやアスファルトに覆われた街ではなくて、人の暮らしや潤いを大切にしてみどりと生きるまちづくりということで進めていきたいと思っており、先ほど市長がおっしゃっておられたコンセプトは基本的に同じではないかと思ひます。都市緑化に向けた市民活動等との連携について、都におきましては地域における民間団体、そして様々な主体と連携して、花や樹木による緑化を積極的に進めるその取組、また樹林地や湧水など貴重な生態系を保全するための取組に対しての支援を行っております。

また、再開発事業でございますけれども、例えば施行者が行う施設の整備に対しまして関係の市町を通じて財政支援を行い、また駐輪場や駐車場などの整備については国費の補助率の引き上げなどを国に要望しているところでございます。引き続き、市区町村のまちづく

りに必要な支援を行っていく考えでございます。続いて副知事の方から続けさせていただきます。

○副知事 市長、いつもお世話になります。私の方からは、市長からお話がありました、保健所、児相、そして放課後の子供の居場所、この3つの話があったと思います。東京都の取組と基本的な考え方について発言をさせていただきます。

まず、保健所でございます。市長からもお話がありました、単純に割ればいいということではなくて、役割や連携ネットワークと、まさにその通りだと思います。現在、都保健所あり方検討会で市町村の委員の皆さんも入っていただく中で議論を進めているところでございます。その中でも、市町村の委員の皆さんからは、都の保健所と市町村の保健センターとの連携、これをもっと密にすべきだというようなお話をいただいております。こうした御意見を伺いながら、更なる連携体制の構築と保健所体制の体制強化について検討してまいります。

続きまして、児相でございます。児相もまさに再編の時期ということで、既に市長会を通じて多摩地域に新たに3か所設置するという方向性を今お示しさせていただいております。現在、交通の利便性等も含めた適地調査を行ってございます。市長の地域につきましては、多摩中部児相というふうに仮称で今考えておりますけれども、そのエリアになると思いますが、適地調査の結果を踏まえて、また御相談をさせていただきたいというふうに考えてございます。

最後に、放課後の子供の居場所づくりというお話がありました。東京都では、放課後子供教室推進事業に取り組む市町村を支援しておりますが、国に対しましても適切な財政措置を図るよう要望しております。また、市長が御案内のとおり、都独自の支援ということで、実施時間の延長に係る経費の支援、あるいは体験活動の充実に係る経費を支援させていただいております。また、これも御案内のとおり、都型一体型学童クラブ事業、こうした事業も都は展開しております。更に、学童クラブの整備でございますけれども、市区町村が学童クラブの待機児童解消計画を策定していただくということを前提として、整備費の補助をする、あるいは放課後の居場所の確保に係る経費を幅広く支援してございます。今後とも各区市町村のニーズを踏まえながら、放課後の子供の居場所の充実に向けて都も連携して取り組んでまいります。以上でございます。

○行政部長 こちらの発言は以上なので、追加ございましたらどうぞ。

○三鷹市長 心強いお話ありがとうございます。私ももともと都知事がおっしゃったように、これからは単なる経済成長じゃなくて質の成長といいますか、グリーン成長といいますかグリーン経済といいますか、そういうことがすごく実は重要になってくると思っておりますので、他の超高層ビルも大切ではありますが、それだけが再開発ではないという視点で今市民と地権者の人といろいろ相談しながら前へ進んでございますので、是非応援をよろしく申し上げます。

それから保健所、児童相談所については今お話があったように、今適地も含めて、あるいは再編のエリアをどうするかとかいうことでもあります。是非質的な面でどういうふう

連携するかということをお話ししていただくことが重要じゃないかと思っていますので、よろしくお願いします。放課後の問題はまさに保育園が足りなくなってきた時代が年を経るごとに、今度は小学校の問題になっていきますから、当然今お話しのように学童をどうするかという話が重要になってくるのですけれども、これまであるものをどう使うかということがすごく重要だと思っていますので、年長者の子供たちにとっては学校に残って放課後を使うという方法もありますけれども、年少者の小さな子に対しては、例えば幼稚園がまた空いてくるのですよね、三鷹の場合には。そうすると、幼稚園って結構広いですから、私立幼稚園を使った学童のあり方とか、そういうことも含めて是非三鷹としても計画づくりが前提だとすれば、挑戦してみたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

○行政部長 それでは三鷹市長との意見交換は以上で終了させていただきます。

○三鷹市長 ありがとうございました。

○**行政部長** 日野市長との意見交換を始めさせていただきます。初めに知事からお願いします。

○**知事** 大坪市長、今日はよろしく願いいたします。日野の地図はワンちゃんになるのですか、大谷選手の飼っている犬に似ている。今日の話題ですけれども。そして今日は地域の課題、そして都政に関する要望などをお聞かせいただきたいと思いますので、どうぞよろしくお願いいたします。早速お始めください。

○**日野市長** 日野市長の大坪冬彦でございます。本日はありがとうございます。まず簡単に日野市についてお話をさせていただきます。日野市は東京のほぼ真ん中に位置しております。人口は18万7,000人を超えて、市域は27.55平方キロメートルの面積であります。北側には新選組の歴史をつむぐ都内で唯一、現存する本陣建築の日野宿本陣があって、旭が丘地域には東京都立大学が、近隣には研究開発を得意とした企業が多く立地しており、イノベーションの拠点となっております。南には関東3大不動尊である高幡不動尊やライオンバスや昆虫園などで魅力的な多摩動物公園があります。

日野市は今年、市制施行60周年の記念すべき年を迎えました。11月3日には、記念式典や市民が作った市の魅力マップ・動画のお披露目がございました。記念式典では、都知事より素晴らしいメッセージをいただきましてありがとうございます。これまで日野市を作ってきた先達への感謝とともに、未来への一步を踏み出して参ります。60周年を記念して多摩動物公園では記念イベントを開催させていただきました。また、イベントでは多摩動物公園と環境SDGsに関するパートナーシップ協定も結ばせていただいたところでございます。今後も様々な事業者、団体等と諸力融合で新たな価値を創造していく日野市を是非、御注目をいただければと思います。

続きまして、私の方から意見を述べさせていただきます。私からは子供・長寿・居場所区市町村包括補助金(3C)のお礼と継続支援について、続いて気候市民会議について、それから子供の医療費助成制度の拡充、学校給食費無償化へ向けた制度の創設についての3点について、市の現状も踏まえてお話をさせていただきます。

まず子供・長寿・居場所区市町村包括補助金(3C)のお礼と継続支援についてです。令和3年度から東京都で実施している子供・長寿・居場所区市町村包括補助金、通称3C補助金については、当市から様々な事業を採択していただいております。そのお礼と事業の紹介をさせていただきます。

1つ目は子供分野で採択いただいた「集え！未来を担う ひのっ子たち 日野市の子育てのランドマークづくりプロジェクト」でございます。現在、令和6年度にオープン予定の(仮称)子ども包括支援センターにおける準備を進めているところでございます。センターは母子保健、児童福祉の組織・場所を一体化して、妊娠期から18歳未満までの切れ目のない支援を提供する日野市の子育ての総合支援拠点となる施設であります。また、すべての子供の健やかな成長を切れ目なく支援する子供、家庭、地域の子育て機能の総合支援拠点として「子どもなんでも相談」、「子育てひろば」及び「中高生世代のスペース」を設置する予定でございます。

子どもなんでも相談では、子供の総合相談窓口として小中学校に配置している GIGA 端末を使って、いつでもどこでも相談できる体制を整えてまいります。また、行政支援につながりにくい中高生の居場所を設置するなど、子供の成長を切れ目なく支援する施設となります。投影しているキャラクター「ぺたぺたさん」ですが、これは施設の整備方針の策定やワークショップなどに参加いただいた当市に立地する実践女子大学の学生さんによるデザインで、いつも子供たちに寄り添うというそういう意味が込められているものでございます。是非完成の暁には御見学いただければと思います。

2つ目も子供分野で採択いただいた学校体育施設等を拠点としたスポーツを楽しむ子供・子育て支援事業でございます。日野市で少子化の中、一つの学校だけではメンバーが揃わない競技種目が増えてきている中、日野型の部活動改革としての「ひのスポ!」「ひのカル!」という地域クラブ活動を新たに創設して取組を進めているところでございます。2年目となる今年度では、コニカミノルタをはじめとする多数の地域企業や団体と連携しながら、この秋までに卓球、バスケットボール、陸上など計8種目が実施できるところまで進んでまいりました。

日野市の特徴は、部活動という既成概念にとらわれず、地域の文化スポーツ活動として取り組んでいることであります。けん玉など、普段の部活動にはない科目を積極的に取り入れ、また小学生の参加など多世代が共に楽しむ場所も見られます。今後も「ひのスポ!」「ひのカル!」の拡大を計画しているところでございます。子供たちの持続可能な文化スポーツ環境の構築に向け、日野モデルが全国のモデルになることを目指して取り組んでまいりますので、引き続きの御支援のほどよろしくをお願いいたします。

次に気候市民会議についてでございます。気候市民会議は2019年ごろから欧州の各都市で拡大しているミニパブリックス(くじ引き民主主義)という手法による市民が気候変動の対応政策案を直接参加で検討する取組であります。日野市でも、この気候市民会議を8月から開催して12月まで5回にわたる会議で政策案をまとめていただく予定であります。気候変動への対応は、グローバルな課題であって、個別の取組で終わらせてはならない課題であると考えております。今回実施している日野市の気候市民会議で出た提言には、東京都や国への要請も含まれることが想定されますので、是非これを受け止めていただき、都政にも活用していただきたいと考えているところでございます。

また、気候変動対策は一つの市で解決するものではありません。このような取組を広げ、ネットワーク化し、行政や市民、企業を巻き込んで社会を変えていくムーブメントにつなげていく必要があるかなと考えております。お隣の市である多摩市とも連携に向けて現在協議を行っているところでございます。東京都での気候都民会議の実施であるとか、気候市民会議のネットワークを主宰するなど取組自治体の拡大と連携に向けた大きな動きにつなげるような道筋作りに、東京都としてリーダーシップを発揮していただくことを期待しております。

最後に、子供の医療費助成制度の拡充・学校給食費無償化へ向けた補助制度の創設についてです。市長会からも要望させていただいておりますが、子供政策を充実させていく中で、

自治体の財政状況によって対応に大きく違いが出ている事業がございます。特に子供の医療費助成制度や学校給食費の無償化について、資料のとおり、国への働きかけなど、全ての子供たちのために御尽力いただきたいと思って、それをお願いしたいと思っているところでございます。

以上3点になりますが、都としてより深く、直接的に多摩地域に関与していただき、各種事業において主導的な役割を果たしていただけることを期待し、私からの発言を終わりとさせていただきます。よろしくお願いいたします。

○行政部長 ありがとうございます。まず、知事をお願いします。

○知事 市制60周年ということでおめでとうございます。そしてまた、多摩動物公園との連携などのお話を伺いました。子育ての関係で3Cですね。3つのCを活用しておられるという点、また、「ひのスポ!」「ひのカル!」など色んな工夫をされておられるな、とこのように感じたところでございます。多摩動物公園の記念イベントもございまして、共同で地域の魅力のPRができて良かったと思います。3つのCですけれども、この御活用していただいているチルドレン・長寿そして最後は地域もしくはコミュニティということで、全部Cですけれども、これを連携して推進できているということをお伺いしました。そして、御説明いただいた2つの事業ですけれども、地元の大学と連携した居場所づくり、それから企業との連携による学校施設を活用した市民向けのスポーツプログラムなど、本当に評価すべきということで、令和4年度に採択をさせていただいたということでございます。親子参加型のワークショップも含めまして、施設の整備や運営にかかる費用を3年間に渡って支援する予定でございます。

それから身近な場で誰もがスポーツを楽しめるということで、「スポーツフィールド・東京」ということを考えておりまして、その実現に向けてスポーツに親しむきっかけづくりとなるイベントの開催、そして市区町村の公共施設をスポーツ活動の場に改修する工事など、ソフトとハードの両面から市区町村のスポーツ振興などの事業を支援しております。引き続き、地域の実情に応じまして、取組を強力に支援していく考えでございます。副知事からの発言が続きます。よろしくお願いいたします。

○副知事 市長、いつもお世話になっております。私の方からは、そのほかの2項目につきまして、東京都の取組、考え方等について発言をさせていただきます。まず、気候変動対策のお話、気候市民会議を開催されているというお話をいただきました。都は、これまでも自治体や環境団体等が実施する市民参加型のシンポジウム・勉強会等に参加することで、都民の皆様生の声を聞きながら、都の取組について発信をして協働と共感を呼びかけてきております。象徴的な取組が幾つかございますが、「わが家の環境局長」のような取組も展開をしているところでございます。また、環境審議会等においても、未来を担う若者からのヒアリングなども実施しております。多様な主体から様々な意見を聞いて、多くの主体の参画を得て気候変動対策に都としても取り組んでまいります。

続きまして、子供の医療費をめぐる様々な課題について御指摘がございました。まず、高校生等の医療費助成項目に関するお話だと思っておりますが、4年目、令和8年度以降の財源、あ

るいは所得制限や自己負担、財政面の取扱いにつきましては、市長会に「協議の場」を設置していただいております。私も節目で参画をさせていただきたいと考えておりますが、都としても真摯に検討してまいります。

続きまして、国保の減額調整措置に関するお話も項目に含まれていたと思いますが、こちらにつきましては、都は国に対して国庫支出金の減額調整制度を全て廃止するよう、これを提案要求しております。国も骨太方針 2023 で、これを廃止すると言っておりますので、廃止の時期や対象の詳細を早期に示すよう国に求めているところでございます。そして、学校給食の無償化でございますけれども、学校給食費の保護者負担の無償化につきましては、まず国がしっかりと学校給食費の負担のあり方を抜本的に整理する。その上で臨時交付金のような一時的な財源措置ではなくて、国の責任でしっかり財源を含めた具体的な施策を示すように、全教連を通じて国に対して要望をしているところでございます。国も全国の実態を把握した上で、今年度中に課題を整理すると言っておりますので、国の動向をしっかりと注視をしていきたいと考えてございます。私からは以上でございます。

○**行政部長** こちらの発言は以上となりますが、特に市長、追加の御発言等ございましたらどうぞ。

○**日野市長** では一つだけ、先ほど都知事の方からスポーツフィールド構想という話を伺いました。今、日野市でもB3スポーツ、とりわけスケートボードの人気の高まっていて、議会でもスケートボードをやる場所をつくってくれと要望がありまして、何とかしたいと思って動き出しているのですが、そういう構想にも今おっしゃったようなスポーツフィールド構想、ソフト・ハード両方あると伺いましたので、活用させていただければと思っておりますので、是非御支援の方をよろしく願いいたします。以上です。

○**行政部長** それでは日野市長との意見交換以上で終了となります。ありがとうございました。以上で本日の意見交換も終了となります。